

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第3部門第2区分  
 【発行日】平成23年7月7日(2011.7.7)

【公表番号】特表2010-528073(P2010-528073A)  
 【公表日】平成22年8月19日(2010.8.19)  
 【年通号数】公開・登録公報2010-033  
 【出願番号】特願2010-509713(P2010-509713)  
 【国際特許分類】

A 6 1 K 51/00 (2006.01)

C 0 7 C 233/07 (2006.01)

C 0 7 B 59/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 49/02 C

C 0 7 C 233/07

C 0 7 B 59/00

【手続補正書】

【提出日】平成23年5月20日(2011.5.20)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

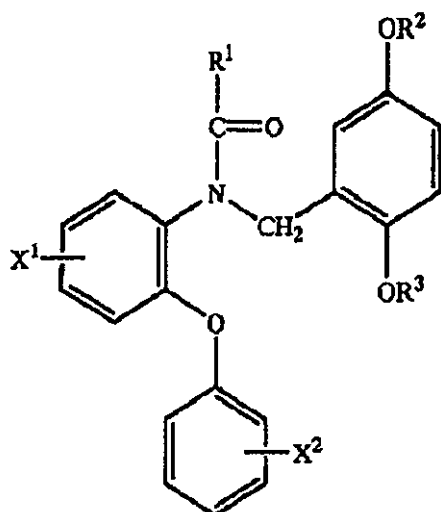
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

炎症及び/又はミトコンドリア機能不全を主要な寄与因子とする血管、心臓、及び腎臓の疾患の画像化のための医薬組成物を製造するための、式1

【化1】



(1)

[式中、

X<sup>1</sup>及びX<sup>2</sup>は、互いから独立して、水素原子又はハロゲン原子であり、

R<sup>1</sup>及びR<sup>2</sup>は、互いから独立して、水素原子、1~10個の炭素有するアルキル基、1~10個の炭素有するハロゲンで置換されたアルキル基又は放射性同位体であり、

R3は、1～5個の炭素を有するハロゲンで置換されたアルキル基、又はその放射性同位体である]

で表される化合物の使用。

【請求項2】

炎症及び/又はミトコンドリア機能不全を主要な発生病因とする血管、心臓、及び腎臓の疾患の画像化が、動脈瘤、狭心症、不整脈、アテローム性動脈硬化、心筋症、先天性心疾患、鬱血性心不全、心筋炎、弁疾患、冠動脈疾患、拡張型心筋症、拡張機能障害、心内膜炎、アテローム、動脈硬化、心筋炎、炎症性心筋症等の心臓の炎症性疾患、腎不全、腎硬化から選択される疾患である、請求項1に記載の使用。

【請求項3】

放射性同位体が $^{11}\text{C}$ 、 $^{18}\text{F}$ 、又は $^{123}\text{I}$ である、請求項1又は2に記載の使用。

【請求項4】

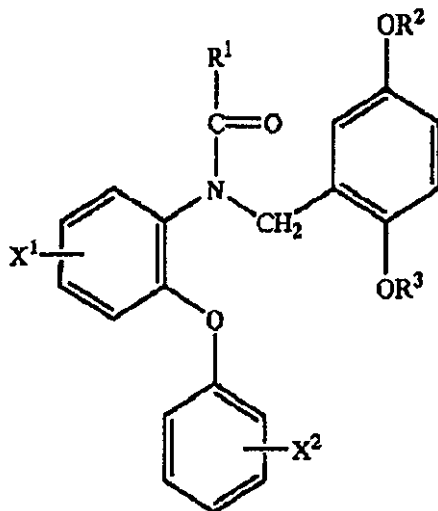
放射性同位体が $^{18}\text{F}$ である、請求項1～3のいずれか1項に記載の使用。

【請求項5】

式1で表される化合物が、N-(2-[ $^{18}\text{F}$ ]フルオロメチル-5-メトキシベンジル)-N-(5-フルオロ-2-フェノキシフェニル)アセトアミド、又はN-(2-(2-[ $^{18}\text{F}$ ]フルオロ)エチル-5-メトキシベンジル)-N-(5-フルオロ-2-フェノキシフェニル)アセトアミドである、請求項1～4のいずれか1項に記載の使用。

【請求項6】

末梢性炎症性疾患を画像化するための医薬組成物を製造するための、式1【化2】



(1)

[式中、

X1及びX2は、互いから独立して、水素原子又はハロゲン原子であり、

R1及びR2は、互いから独立して、水素原子、1～10個の炭素を有するアルキル基、1～10個の炭素有するハロゲンで置換されたアルキル基又は放射性同位体であり、

R3は、1～5個の炭素有するハロゲンで置換されたアルキル基、又はその放射性同位体である]

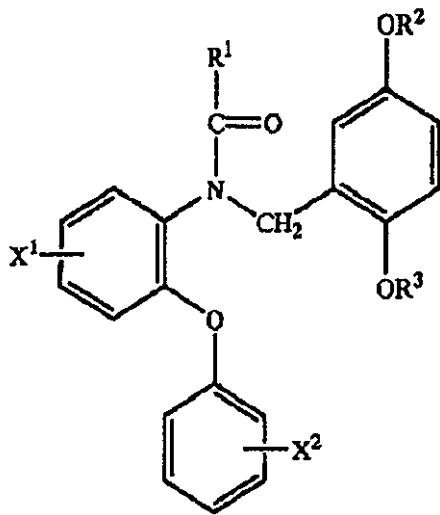
で表される化合物の使用。

【請求項7】

自己免疫性疾患を画像化するための医薬組成物を製造するための、式1

【化 3】

(1)



〔式中、

X<sup>1</sup>及びX<sup>2</sup>は、互いから独立して、水素原子又はハロゲン原子であり、

R<sup>1</sup>及びR<sup>2</sup>は、互いから独立して、水素原子、1～10個の炭素有するアルキル基、1～10個の炭素有するハロゲンで置換されたアルキル基又は放射性同位体であり、

R<sup>3</sup>は、1～5個の炭素有するハロゲンで置換されたアルキル基、又はその放射性同位体である〕

で表される化合物の使用。

【請求項 8】

前記自己免疫性疾患が、多発性硬化症、関節リウマチ、又は筋萎縮性側索硬化症(ALS)から選択される、請求項 7 に記載の使用。